



スピーカー: **MISA4thePacific** / マーシャル諸島共和国

マーシャル諸島共和国(RMI)の学生たちが主導となりスバで活動している団体。地域の若者や学生のエンパワメントをサポートし、太平洋地域での植民地化による不平等の是正を訴えている。核の不平等にも活発に取り組むほか、気候変動などのテーマでも活動している。

---

当時 私は7歳でした。爆発を見た時はアメリカ人が別の戦争をしていると思いました。私たち子供は幼かったので本当に何も知りませんでした。

水が黄色くなったのを見ました。何も知らずにその水を飲んでいました。食べ物も黄色くなりました。粉末状の物質を見ましたが、幼かったので本当に何も知りませんでした。大人たちは多分わかっていたと思いますが、確かではありません。

毒(汚染)のことを何も知らなかったんです。私たちは泣き、私はおびえていました。数時間後、飛行機が来ると妊婦と老人たちを連れて行きました。そして、あと一席空いていると言ったのです。私は祖父母に飛びつき、『私！』と言いました。そうして私たちはクワジェリンへ飛びましたが、他の人たちはそこに残りアメリカの方から軍艦が来るのを待っていました。ですが、私たちはクワジェリンに飛びました。

当時は何もわかりませんでした 私は3歳か4歳だったと思います。でも、よく耳にしたのは、ウジェランの飲み水に混ざった白いものの話。老人たちは水自体の問題だと思っていました。でもそれは、あの爆弾の実験によるものでした。あの爆弾が爆発した日に感じたのはみんな緊張していたことです。私はずっと緊張していました。

私はビキニ環礁の出身です。クワジェリンで生まれました。1968年にアメリカ人はビキニの人たちにこう言いました、ビキニは安全できれいだから戻ることができる。ですから1974年、私はビキニ環礁の長く白い砂浜で遊ぶ子どもの一人でした。両親もビキニに引越してきました。でも1978年になると「おっと、思ったより放射性物質が多かった」とアメリカ人は言いました。

彼は私より年上です。彼の名前はイロージ・ケベンリ。亡くなりました。

皆さんはこの話を聞きにきてくださいました

私は悲しみに打ちひしがれています。なぜなら母が亡くなり、父が亡くなりました。姉も全員亡くなりました。全て核実験のせいです。

私は生涯を通して甲状腺の手術を3回受けました。脳卒中にもなりました。毎日、9種類の薬を飲んでいきます。5年間毎日飲んでいる薬もあります。毒(放射線)のせいだと思っています。しかし、私は神の助けを求め続けます。

ルニットについての話を聞きましたココナツとパンダナスが豊富にありました。しかし、実験後は酷い状態になりました。ルニットは本当に酷い状態です。パンダナスの木がありますが、汚染されていて食べられません。ココナツの木がありますが、触らないように言われています。私たちは何もわかりませんでした。何が起きているのかを見るのは初めてだったんです。私たちは皆、緊張していました。全員死んでしまうのではないかと思います。

実験の後、ビキニの人たちの生活は大きく変化しました。私たちは泣きました、涙を流しました、絶望しました。泣くに決まっていた、それしかできなかったのです。



私たちがそこにいる間に彼らは戻ってきました。ビキニに戻ってきて、検査をして、私たちの体内の放射線量を調べました。振り返って言えることは、彼らが放射線の人体への影響を研究をしていたということです。

そこが私の出身地で、私の母の出身地でもあります。母も父も死にました。二人とも亡くなりました。癌で死にました。これが死や立ち退き、放置、大混乱を目の当たりにしてきた目に、垣間見えることです。

時が変わっても状況は変わりません。二つの太陽の日に流した涙は、ラグーンを囲んでいる涙と同じです。放射性降下物の粉は私たちの肌に落ちただけでなく、私たちの運命にも付いたのです。

しかし、今こそ声なきものの声をあげる時です。

長年に渡って流された涙を拭うため。

物語を変えるために。

航海術を持つ民として強制的に住む場所を奪われた人々が、前を向き、航海を続けなければなりません。

私たちの希望と目標は、次の世代の人たちが毅然とした態度で、リーダー達がこの問題に取り組むよう要求することです。議論は今、必要です。なぜなら、私たちは多くの土地を失っているからです。エネウエタクのルニットドームのように土地が失われれば失われるほど海に流出して魚をダメにしてしまう可能性が高くなります。私たちの魚だけでなく、太平洋まで破壊してしまいます。

生存者たちは、原爆投下時とその後、健康への影響、避難生活、トラウマなどの体験を話してくれました。生存者のほとんどが亡くなり、ごく少数の生存者も重い病気にかかっているためこの窮状は続いており、世界中のマーシャルの若者たちが正義を求めようと決意しています。

#### おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>